

学校法人山内学園
香蘭女子短期大学
機関別評価結果

平成 25 年 3 月 14 日
一般財団法人短期大学基準協会

香蘭女子短期大学の概要

設置者	学校法人 山内学園
理事長	坂根 康秀
学 長	坂根 康秀
A L O	濱田 尚志
開設年月日	昭和 33 年 4 月 1 日
所在地	福岡県福岡市南区横手 1-2-1

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
ファッション総合学科		125
食物栄養学科		50
保育学科		150
ライフプランニング総合学科		200
	合計	525

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	テクニカル専攻	15
	合計	15

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

香蘭女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 25 年 3 月 14 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 23 年 7 月 12 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、建学の精神を「いかなる困難な場にあっても、創意・工夫を大切にし、人を愛し、人から愛される自立した女性の育成」とし、レデードレス香蘭女学院(昭和 10 年開校)を含め 70 数年にわたり地域の高等教育の一翼を担い、女性の中堅技術者養成にとどまらず、地域を支える女性経営者を数多く輩出している。当該短期大学は、現在、ファッション総合学科、食物栄養学科、保育学科及びライフプランニング総合学科の 4 学科で編成されている。建学の精神を堅持するとともに時代の変化に対応し、これを学生に分かりやすく馴染み深い、教育理念である学訓「創意・自立・敬愛」として示すなど、絶えず教育の改善に努めている。

建学の精神に基づき、各学科の教育目的・目標が定められ、食物栄養学科、保育学科では重要な目的である資格取得に向けた教育が適切に行われている。また、本協会認定の地域総合科学科であるファッション総合学科とライフプランニング総合学科では学生の幅広い能力開発に配慮した教養教育を導入し、目標をほぼ達成するなど適切な学習指導の成果が表れている。

平成 4 年より自己点検・評価のために教学活動点検委員会を設置し、点検・評価を行っており、評価内容は教員に共有され、問題点の改善を図っている。また、鈴峯女子短期大学と 3 回の相互評価を実施し、その成果を改革・改善に生かしている。

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針は学科ごとに定められ、ウェブサイトの情報公開のページで公表されている。また、卒業に必要な単位数・成績評価基準等は、各学科とも学生便覧、シラバスに明示され、ウェブサイトにも公表されている。当該短期大学独自の成績の得点化や学生による授業評価、各学科の教育目標の達成状況の把握等が行われ、各学科で、学習成果の達成度を調査し、活用している。さらに、事務職員は各学科教員と連携し、学生の成績・就職等のデータを解析し提供するなど、事務組織による教育支援が行われており、また、就職支援についても各学科の教員と事務局学生課職員で構成される就職推進委員会を中心に指導がなされている。

教員組織は短期大学設置基準を満たしている。教員の研究業績をウェブサイト等で公開し、研究成果の発信に努めている。講師以上には研究室が確保され、研究時間及び研究費の確保、海外派遣等が行われている。また、FD・SD カフェを学内に開設し、教職員間の意見交換がなされている。

校地・校舎は短期大学設置基準を満たし、校舎は平成 22 年 1 月にすべてが耐震構造化されている。教室等の施設設備は各学科の教育目的に従って設置され、食堂、ラウンジ等も整備され、学生に活用されている。図書館は学生の学習に有効に活用されており、適切な運営が行われている。技術的資源は情報端末利用運営委員会にて、見直し、活用が検討されている。各学科とも、教育の質を高めるために、効果的な機器の活用を努めている。

理事長は学長を兼任し、当該短期大学の建学の精神、教育理念・目的を理解し、当該短期大学の発展に寄与している。理事会及び評議員会は適正に開催されその責務を果たしている。学長は授業改善や FD 活動に積極的に取り組み、その成果を教職員と共有するよう努め、代表教授会の下に教学活動点検委員会、各学科教授会、FD 委員会のほか、13 の委員会を設け、規程に基づいて適切に運営している。監事は、学校法人の業務及び財産の状況について、定例の理事会・評議員会に出席し、意見を述べている。公認会計士との意見交換の上、理事会・評議員会において監査報告を行い、報告書を提出している。

平成 23 年 9 月には、定員確保など基本行動理念及び戦略をまとめた「Koran Vision 2015」を作成しており、当該短期大学の将来像が明確にされ、また経営計画が策定されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準 I 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 建学の精神は、3～4 年ごとに定期的に見直しを行い、学生に分かりやすく馴染み深いものとするため、教育理念としての学訓「創意・自立・敬愛」が定められている。

[テーマ B 教育の効果]

- 各学科とも、建学の精神に基づく教育の目的・目標は明確にされている。特に資格取得が最大の目的となる食物栄養学科と保育学科の学習成果は学生にも分かりやすい。また、ファッション総合学科とライフプランニング総合学科はフィールド&ユニット制を導入し、学生の目的にあった科目を履修できるようにして、学習成果の向上に努めている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ B 学生支援]

- 事務職員は各学科教員と連携し、学生の成績・就職等のデータを提供、分析をしている。FD・SD カフェが行われており、授業・教育方法の改善や各学科の教育目標等の理解を図っている。
- 保育学科では全専任教員が卒業生の就職先を訪問して聞き取り調査を行い、その報告書を作成して学習成果の確認に使用している。また、ファッション総合学科とライフプランニング総合学科では各種の資格検定試験の受験体制をとり、学生指導を行っている。
- 授業評価アンケートの結果については、各教員が自らの授業の改善に役立てるだけでなく、学科単位での分析も行い、教科内容の見直しに活用している。
- 成績優秀で出席状況が良好な学生をチューターとして選抜し、他の学生の相談を受けるなど学生の目線でのアドバイスができる仕組みにしている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 講師以上には研究室が確保され、就業規則等により、研究費及び研究時間の確保、海外派遣等が行われている。

[テーマ D 財的資源]

- ファッション総合学科とライフプランニング総合学科の定員充足のために、「Koran Vision 2015」という中期目標を掲げ、それに基づいて全教職員で行動目標を作成・点検し、学生の確保を試みている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

[テーマ A 理事長のリーダーシップ]

- 理事長は学長を兼任し、建学の精神、教育の理念・目的を理解しており、当該短期大学の発展にリーダーシップを発揮し、寄与している。また、兼任していることで、経営と教学の両面に精通しており、すべてのことに迅速に対応することが可能である。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動

などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ B 教育の効果]

- 保育学科では卒業生の就職先で訪問聞き取り調査を行い、次年度の授業や学生調査に活用しているが、今後、全学的な取り組みが望まれる。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針は学科ごとに定められており、ウェブサイトの情報公開のページで公表されている。なお、三つの方針については、学生への周知徹底のために、学生便覧等への掲載が望まれる。
- ライフプランニング総合学科では、既に十分な履修指導が行われているが、卒業後の進路に結びついた指導等の工夫が望まれる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

- 教職員に対するパソコン講習会等を開催することにより、授業、研究での活用を促進することが望まれる。

[テーマ D 財的資源]

- 余裕資金はあるものの、短期大学部門の消費収支が支出超過であるので収支バランスの改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

建学の精神は「いかなる困難な場にあっても、創意・工夫を大切にし、人を愛し、人から愛される自立した女性の育成」であり、レデードレス香蘭女学院（昭和10年開校）を含め70数年にわたり地域の高等教育の一翼を担っている。女性の中堅技術者養成にとどまらず、地域を支える女性経営者を数多く輩出し、九州地域の大学において、女性経営者の輩出数が3位内であるなど特出する実績を持っている。

また、時代の変化に対応し、建学の精神を分かりやすく馴染み深い、教育理念である学訓「創意・自立・敬愛」として示すなど、建学の精神を堅持しつつ、絶えず点検を行っている。学訓は各行事や印刷物、ウェブサイト等で公表するとともに、学生に対しては学長講話等で周知し、学内で共有している。

学科の教育目的・目標は建学の精神に基づいて定められ、各学科の教育目標の中に学習成果が明確に示されている。教育目的・目標の見直しは定期的に行われ、さらに、PDCAサイクルによる査定が平成23年度から導入されている。また、教育目的・目標を新入生に対しオリエンテーション及び掲示物等で周知し、ウェブサイトにも公表している。

平成4年より自己点検・評価のために教学活動点検委員会を設置し、建学の精神の確認をはじめ、点検・評価を行っている。評価内容は教員に共有され、問題点の改善を図っている。鈴峯女子短期大学との3回の相互評価を通じて、ハラスメント防止規則の制定、シラバス様式の改善等を行っており、その成果を改革・改善に生かしている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針は学科ごとに定められており、ウェブサイトの情報公開のページで公表されている。なお、三つの方針については、学生への周知徹底のために、学生便覧等への掲載が望まれる。また、卒業に必要な単位数・成績評価基準等については、各学科とも学生便覧、シラバスに明示されており、ウェブサイトにも公表されている。シラバスの内容はほぼ統一されているが、各回の授業内容の記載方法の統一、事前・事後学習の項目の追加が望まれる。学習成果については、各種ガイダンスで周知徹底されており、おおむね確立され

ている。

当該短期大学独自の成績の得点化や学生による授業評価、各学科の教育目標の達成状況の把握等が行われ、各学科で、学習成果の達成度を調査し、活用している。さらに、事務職員も各学科教員と連携し、学生の成績・就職等のデータを提供、分析を行っている。また、FD・SD カフェを通じて、授業・教育方法の改善や各学科の教育目標等の理解を図っている。

入学手続者に対して、「入学のしおり」が郵送され、入学後の学生生活が円滑に進むように配慮するとともに、入学前カルテを提出させ、さらに入学前相談会を実施するなど、導入教育の取り組みを行っている。また、学習成果の獲得に向け、入学直後のオリエンテーションに 5 日間という十分な時間を設定し、ファッション総合学科ではオリエンテーション期間中にファッションに関する教育講演会やコミュニケーション講座を行っている。奨学金については日本学生支援機構のほか、香蘭女子短期大学特別奨学金(返還不要)を設けて対応している。

各学科の教員と事務局学生課職員で構成される就職推進委員会を中心に就職指導が行われ、キャリア相談室において就職指導・相談が実施されており、保育学科の就職率 100 パーセント等の成果を上げている。また、学生の卒業後評価への取り組みとして、保育学科では、卒業生の就職先で、訪問聞き取り調査を行い、次年度の授業や学生支援に活用している。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

4 学科とも専任教員数及び教授数は、短期大学設置基準を充足している。専任教員の年齢構成については、新規教員の採用時に勘案し改善を図っている。専任教員の職位も学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を充足している。教員の採用、昇任については就業規則第二章に基づき適正に行われている。教員の研究業績はウェブサイトで公開し、研究成果の発信に努めている。講師以上には研究室が確保され、研究時間及び研究費の確保、海外派遣等が行われている。一方、永年にわたり研究成果の未発表の教員もおり、研究活動活性化に向けた全学的な取り組みが望まれる。

事務部門も機能的に整備され、新校舎は消防法、建築基準法、耐震構造、セキュリティ等に適合している。自衛消防訓練や消防設備点検が定期的に行われている。教職員の就業に関する諸規程は整備、周知されているが、法令等の改正に伴う規則・規程の改訂及び周知に更に努められたい。

校地・校舎の面積は、短期大学設置基準を充足している。また、すべての校舎がバリアフリーに対応している。講義室・実習室等は、設置学科の教育内容に応じた施設を有しており、マルチメディア室を含めてパソコン室を 5 教室設置するほか、AV 設備も整備されている。図書館は適正な蔵書数を整備し、開館時間を延長するなど学生の利便性を図り、学生の学習に有効に活用されており、適切な運営が行われている。また、体育館を有し、建物等の施設に対する適正な管理が行われている。

各学科の教育課程の編成・実施に必要な施設設備・技術は、整備・活用されている。

技術的資源は情報端末利用運営委員会において見直し、活用が検討されている。各学科とも、教育の質を高めるために、効果的な機器の活用に努め、特に、ファッション総合学科ではパターン教育・デザイン教育・マルチメディア教育等を導入し、時代に即応した教育が展開されている。

平成 20 年度～平成 22 年度の校舎建替えにより、学校法人の帰属収支について、平成 21、22 年度は支出超過であったが、平成 23 年度は収入超過に転じている。余裕資金はあるものの、短期大学部門の平成 21 年度～平成 23 年度の消費収支が支出超過であるので収支バランスの改善が望まれる。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は学長を兼任しており、建学の精神、教育理念・目的を理解し、短期大学の発展に寄与している。また、経営と教学の両面に精通しており、学園すべての組織の会計伝票に目を通し、経理担当者から月次報告を受け、適切な学園運営ができるよう尽力している。会計年度終了後はすみやかに監事の監査を受け、理事会、評議員会に諮っている。また、外部監査法人と意見交換を行っている。

学長は、平成 12 年から学長職を務め、大学運営に関しては十分な見識を有している。独自の満足度調査のほか、本協会による「短期大学学生調査 2009 年(JJCSS2009)」にも積極的に参加し、その結果を当該短期大学教職員に解説し、改善すべき方法を指示している。学長は授業も担当し、授業改善や FD 活動に積極的に取り組み、その成果を教職員と共有するよう努めている。代表教授会の下に教学活動点検委員会、各学科教授会、FD 委員会ほか、13 の委員会を設け、規程に基づいて運営しており、すべての委員会における重要事項の審議結果は、最終的に代表教授会での承認を取ることとなっている。

監事は、学園行事等の際には教育研究活動について、また、会計士監査の際には財務状況について等、機会をとらえて適宜監査している。監事は、学校法人の業務及び財産の状況について、定例の理事会・評議員会に出席し、意見を述べている。公認会計士との意見交換の上、決算理事会・評議員会において監査報告を行い、報告書を提出している。

評議員は寄附行為第 23 条により欠員なく、選任されている。評議員会開催時の出席については毎回ほぼ全員が出席し、私立学校法に基づき理事会の諮問機関として予算・決算においても評議員から意見の付言が行われている。また、予算・決算評議員会以外の開催では、理事会との合同の会議も行われ、理事との意見交換も行われている。

理事長は中・長期計画に基づき、毎年 11 月に次年度の方針を教職員に伝え、事業計画と予算の申請の集約を財務担当者に指示している。担当者は申請事由を精査して理事長に提出し、その後、評議員会、理事会の議を経て、決定されている。また、資産運用・管理については管理運用規程に基づいて適正に行われている。教育情報・財務情報は、ウェブサイトや学園だより等により公表・公開されている。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは 4 基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4 基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

教養教育の取り組みについて

総評

ファッション総合学科及びライフプランニング総合学科において、地域総合科学科としての特徴から教養教育に意欲的に取り組んでいる。

ファッション総合学科では三系列(人文科学、社会科学、自然科学)のほか、体育、外国語等 20 科目 32 単位を開講し、教養単位の修得状況はほぼ 80 パーセントを示し、成果を上げている。また、当該短期大学が福岡に立脚することからアジアの玄関口と位置付けてファッションを重視し、英語のほか、中国語、韓国語及びフランス語を開講するなど積極的な展開は評価に値する。基礎学力の低下に対応し導入した小テストの試みは評価できるが、十分な成果が上がっていないとの自己点検・評価がされている。改善計画が示されており、今後の成果を期待したい。

ライフプランニング総合学科では 28 科目の教養科目が配当され、多様な価値観の養成に努め、卒業要件 64 単位中 8 単位の選択必修を義務づけており、平均修得単位数は 11.6 と最低基準を上回り成果を上げている。時間割編成と担当教員配当の問題から、学生が希望する教養科目の履修が困難なケースもある。

職業教育の取り組みについて

総評

建学時の被服学科単科としての特徴から、技術教育を重視した職業教育を行い、その精神と成果は現在にも受け継がれている。特に、ファッション総合学科では昭和 48 年から夏季公開講座として被服関係の技術研修を行っている。その実績とノウハウを「アパレルテクニカルイノベーション講座」として展開し、平成 19 年度文部科学省の GP に採択されている。当該 GP には 400 名に及ぶ受講者があり、受講者に高く評価されるとともに専任教員が建学の精神に基づいた職業教育に対する自信を得る効果があった。ライフプランニング総合学科では学生の社会的、職業的自立支援の観点から、職業観及び職業能力の習得に努め、これらについて必修科目で指導を行っている。ま

た、職業に直結する各種の資格・検定の取得を支援し、効果が上がっている。さらに、実務体験、現場体験を取り入れ、学生の職業理解、意識の育成に努めている。学生の希望の多い医療事務、ブライダル、旅行会社関連の求人開拓が望まれる。

地域貢献の取り組みについて

総評

地域の教育機関としての特徴を生かし地域の教育、文化活動等活発に活動し、市民権を得ている。

被服学科(現在のファッション総合学科)は本協会(平成 15 年)より「地域総合科学科」として認定され、外部での講演、地域イベントへの協力を積極的に行ってきた。福岡市の中心で行われる卒業記念ショーは 30 年以上継続され、本事業は学生が運営の中心を担っている。デパート、新聞社、同窓会からの賞の贈呈のほか、平成 23 年度にはデパートでも開催されるなど高く評価され、福岡のファッション文化を支える一助となっている。また、平成 22 年度には上海万国博覧会日本館イベントスペースにおいて活動を展示発表し、平成 23 年度には中国大連での国際ファッションフェスティバルに参加するなど、学科の特色を生かし地域貢献並びにボランティア活動を行い、地域からの評価が高いことがうかがえる。

ライフプランニング総合学科では、毎年 3~4 講座を夏季公開講座で実施しているほか、ファッション総合学科と共催で高等学校の家庭科教員を対象とした講座を開講し、地域の教育活動に貢献している。